

平成26年度 「心に響くふるさとの道徳指導資料（小学校編）」

指導資料の活用にあたって

平成26年度「心に響くふるさとの道徳指導資料（小学校編）」の作成にあたっては、基本的に次のことを踏まえました。

1 主題名について

主題名は指導内容を端的に表現したもの、あるいは資料の内容を表したものが望ましいと考えます。特に、児童の発達の段階を十分配慮して表現を工夫し、ねらいの達成の一助となるようにしました。

2 資料名とその出典について

道徳の時間に生かす教材は、児童が道徳的価値の自覚を深めていくための手掛かりとして極めて大きな意味をもっています。特に郷土の先人の伝記は、児童が身近に感じるだけでなく、多様な生き方が織り込まれ、生きる勇気や知恵などを感じることができるとともに、人間としての弱さを吐露する姿などにも接し、生きることの魅力や意味の深さについて考えを深めることができます。

そこで、「『郷土の道徳—小学校編—』（岐阜県教育委員会）」（昭和61年7月）に掲載されている資料を中心に取り上げ、より効果的な指導方法を示しました。

3 主題構成表について

主題構成表は、道徳の時間の指導内容を明らかにし、本時のねらいを明確にするものです。どの指導事例も、指導者の基本的な構えや手順として、次の5点を大切にしました。

(1) ねらいとする道徳的価値の分析

- ・1つの内容項目にも、複数の道徳的価値が含まれています。そこで、どの道徳的価値で指導するのか、焦点化を図る必要があります。
- ・人として生きる上で、その道徳的価値にどのような意味や必然性があるのかを考え、道徳的価値の本質をつかみます。道徳的価値についての授業者の捉えの深さが、授業での児童の追求の深さに大きく関わってきます。
- ・児童の発達の段階から、特に重視する内容は何かを具体化します。

(2) 児童の実態・意識の要因の把握

- ・具体的な行動から、まずはよさとして認められることに着目し、それを児童の道徳性のよさとして捉えます。
- ・ねらいとする道徳的価値から、児童の行為と意識を、自分自身、他者との関わり、対象との関わりなどの視点から多面的に考えます。特に、ここでの意識が道徳の授業の感じ方や考え方につながります。

(3) 資料の分析

- ・授業を構想するに当たり、次に示す4点に留意しながら何度も資料を読み込むようにします。
 - ①ねらいとする道徳的価値や展開にとらわれて狭い視野で読むのではなく、一人の人間として主人公の生き方の真の素晴らしさは何かを考えながら読む。

- ②人としての弱さやもろさと、強さや素晴らしさのそれぞれを兼ね備えた主人公の生き方を読み取る。
- ③資料の登場人物等の言動は、主人公の言動と対照的に描かれていることが多くあり、こうした言動を主人公の心の分身であると捉えて読むこともできることを踏まえ、資料を多面的に読み込む。
- ④ねらいとする道徳的価値からみた児童の実態を基に、資料のどこを扱うかを吟味する。

(4) 本時のねらい

- ・(1)～(3)を踏まえ、焦点化した道徳的価値を基に、学年の発達の段階を考慮し、児童生徒にどのような感じ方や考え方を深め、ねらいに迫っていくかを明確にします。
- ・ねらいは、道徳的価値に照らして簡潔に表現します。本指導資料の事例では、より指導の構想が考えられるよう、「～しようとする心情を育てる。」ためには、何に気付かせることが大切か、そのためには何を考えさせることが必要かを明らかにして、「…に気付き、～しようとする心情を育てる。」という書き方によるねらいを設定しています。

(5) 展開の構想・基本発問

- ・4に示す基本的な学習指導過程を参考にして、導入・展開・終末の各学習指導過程において目指す児童の具体的な姿を描きます。
- ・児童の心の動きに即し、ねらいに迫るための基本発問と中心発問を考えます。

(6) 「私（わたし）たちの道徳」の活用

- ・「私（わたし）たちの道徳」は、道徳の時間においてだけでなく、各教科等の学習や、家庭に持ち帰って活用するなど、道徳の時間との関連を図った指導を行うことが大切です。本指導資料の事例では、いつ、どのような活用の仕方が適切なのかについて、事例を示しています。

4 学習指導過程について

(1) 基本的な学習指導過程について

学習指導過程は、児童がねらいとする道徳的価値についての自覚を深めるための手順を示すものです。実際の指導に当たっては、児童の実態や扱う資料の特性等によって、多様な学習指導過程が考えられます。ここでは、その中でも基本的な展開として一つの例を示しました。ただし、いたずらに固定化、形式化することなく、弾力的に扱うなどの工夫をすることが大切です。

- ◇導入→ 主題に対する児童生徒の興味・関心を高め、学習への意欲を喚起します。
 - ・ねらいとする道徳的価値について、生活経験を想起させたり、事前のアンケートの結果を示したりして方向付けをします。
 - ・使用する資料によっては、写真やVTR、効果音などを使った効果的な導入を工夫します。
- ◇展開前段→ 資料に描かれた主人公等の行動や生き方を通して、ねらいとする道徳的価値についての自覚を深めます。
 - ・ねらいとする道徳的価値について、自己の生き方と結び付けながら追求し、より確かな把握ができることを目指します。
 - ・主人公の揺れ動く心やよりよい生き方の実現に向かう心のありようを、じっくりと追求します。
 - ・この過程では、役割演技や話し合い活動等による追求が中心になります。より深ま

りのある授業にするために、役割演技等の位置付け方や扱い方、児童同士による話し合い活動の位置付け方、板書の生かし方などの指導方法を工夫することが大切です。

- ◇展開後段→ 追求した道徳的価値を自分自身の現在及び将来の生活の中においてどのように実現していくかを考えたり、自分自身の生活を振り返って考えを深めたりします。
 - ・ねらいとする道徳的価値についてまとめたり整理したりすることで単位時間を振り返ります。
- ◇終末→ 単位時間の授業のまとめをする段階であり、一人一人が見つめた生き方を今後の生き方へとつなぎます。
 - ・児童がこれからの自己の生き方について、憧れや希望を抱いて単位時間を終わらせるように、児童が感想や考えを発表したり、教師が説話や体験談を話したり、補助的な資料を提示したりするなど、指導方法を工夫します。

(2) 発問の工夫について

本指導資料の事例では、学習指導過程において、ねらいを達成するために必要な道筋をつけていく一貫性のある問いかけを基本発問として「○」、これなくしてはねらいに迫れない最も重要な発問を中心発問として「◎」で表記しました。また、ねらいとする道徳的価値についてより深く追求していくための「深めの発問★」を中心発問の後に位置付けました。「深めの発問」は、実際の授業では、その時の児童生徒の反応に応じて、発問の必要の有無も含めて、問いかけ方を変える可能性が高いものです。しかし、児童に道徳的価値をどこまで捉えさせたいのかを事前に明確にするためにも、この「深めの発問」を事前に考えることは非常に重要なことです。

(3) 変容の見届けについて

「変容の見届け」として、道徳の時間の中で授業者がどのような観点で評価するとよいのかを表記しました。道徳的实践力を育成するために、児童が道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深める学習ができたかが重要です。児童が道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深めるために、授業者は児童がどのような学びをすれがよいのか、単位時間の授業の中で期待する学びの姿を「変容の見届け」として、学習の状況に即して想定します。

5 他の教育活動との関連

学校における道徳教育は、学校の教育活動全体を通じて行うものであることに留意して、道徳の時間の指導と他の教育活動との関連について例示しました。道徳の時間と他の教育活動との関連図の作成に当たっては、以下の2点を基本的な構えとしてまとめました。

- ①道徳の時間を要として、その前後に児童が主体的に関わる教育活動を構想し、それらの一連の過程を位置付けました。また、学習指導要領に「各教科等における道徳教育に関わる指導の内容及び時期を整理したもの（中略）を別葉にして加えるなどして」と記述されている点を踏まえ、教科指導との関連を明記するようにしました。
- ②児童の意識を想定して、児童の意識を高めていくための指導・援助を具体的に示しました。児童の意識を高めていくためには、どのような場で、どのような指導・援助が有効か、また、どのような教育活動で行為や意識が把握できるかなど、効果的な関連が大切なポイントです。そこで、他の教育活動における指導・援助について具体的に示しました。